

平成 26 年 6 月 18 日現在

機関番号：84413

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：23520855

研究課題名(和文) 近世大坂における両替商の都市社会史的調査研究

研究課題名(英文) Urban Socio-Historical Survey Research on Early Modern Osaka's Money Exchanger

研究代表者

八木 滋 (YAGI, Shigeru)

公益財団法人大阪市博物館協会(大阪文化財研究所、大阪歴史博物館、大阪市立美術館、大阪歴史博物館・学芸員)

研究者番号：70311446

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,800,000円、(間接経費) 840,000円

研究成果の概要(和文)：近世大坂の両替商および豪商に関する史料を収集し、都市社会史的に研究した。おもに石灰町の両替商銭屋(逸身：いつみ)佐兵衛家・榎木町の両替商干草(ちぐさ)屋(平瀬)宗十郎家の文書について調査・研究し、経営だけでなく町などの社会的関係やイエの内部組織(家族・奉公人など)を個人のレベルにまで立ち入って検討した。また、道頓堀を開発した豪商の安井九兵衛や平野次郎兵衛が果たした役割などを明らかにし、17世紀の大坂の都市開発の過程を展望した。

研究成果の概要(英文)：We gathered documents related to early modern Osaka's exchange houses and wealthy merchant houses. Utilizing these documents, we conducted urban socio-historical research. Primarily, surveyed and analyzed documents from two exchange houses, the Zeni-ya(Itsumi) Sahei House in Ishibai-machi and the Chigusa-ya(Hirase) Sojuro House in Kajiki-mach. In our analysis, we examined not only the business operations of both Houses but also their internal structures (family, servants) and the social relationships that they formed inside and outside of the cho of which they were part. Accordingly, our analysis focused largely on individuals. In addition, we elucidated the role that wealthy merchants Yasui kuhei and Hirano Jirobei played in the development of the Dotonbori district. On the basis of that analysis, we surveyed seventeenth-century Osaka's urban development.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学/日本史/近世史

キーワード：大坂 両替商 都市開発 銭屋佐兵衛 安井家文書 明簪

1. 研究開始当初の背景

近世大坂は、一般に「天下の台所」と呼ばれ、幕藩制的な流通・金融構造の中心地とされてきた。しかし、実証研究レベルでは、大名貸経営に特化した鴻池家などの経営構造の分析や米穀証券市場のシステム分析に限られていた。つまり、「天下の台所」とは呼ばれているが、その内実は史料制約もあり、必ずしも実証的かつ具体的にはあまり明らかにされておらず、いわば「ブラックボックス」となっていた。

しかし近年、「手形」取引など両替商の具体的な経営活動の内容が明らかになるとともに、近世の高利貸資本から銀行へと展開していく過程を跡付ける研究も出てくるなど、新たな展開を見せている。また、両替商に関する新たな古文書群も見つかり、その調査と研究が必要になってきている。

一方、近世大坂の都市社会史研究の分野でも、町や諸仲間、周縁の身分の研究が大きく進展してきた。

そこで、中小も含めた両替商について都市社会史的な視角から調査・研究することにより、新たな大坂商人像を浮かび上がらせる必要を感じたのである。

2. 研究の目的

近世大坂に存在した大小さまざまな両替商について新たな史料発掘を行いつつ、大坂における経済史研究、都市社会史的研究の成果の上に立って、それら両替商（豪商）を都市社会史的に分析することによって、近世大坂における商人ネットワークおよび社会的・経済的な存在構造を、個々の両替商（商人）に即して明らかにする。そして、大坂および近世都市の都市社会構造および近世の全国的な経済構造の解明を展望する。

3. 研究の方法

大坂の両替商に関する未整理文書を整理するとともに、史料所蔵機関に所蔵されている両替商関係史料を調査し、研究に必要な史料収集を行う。

で収集した史料をもとに、A. 商人ネットワーク、B. 町との関係の2つの視角から分析する。Aでは、経営のつながり、縁戚関係について具体的に分析する。Bでは、土地所持=町屋敷経営、町との関係、奉公人や出入の小商人・職人との関係について、具体的に検討する。

で明らかにし得た諸事実をもとに、両替商のイエの構造を復元し、それを都市社会との関係のなかでとらえ直す。そして、他家との相互関係の把握および類型化を試みる。

4. 研究成果

銭屋佐兵衛家の調査・研究

銭屋（逸身）佐兵衛家（銭佐）は、島之内石灰町に本拠をおく両替商で、船場備後町四

丁目にも店（銭屋佐一郎名義）を持った。明治になると逸身銀行を設立したが、1901年に破産した。近年逸身家に残された文書が見つかり、東京大学日本史研究室を中心とした逸身家文書研究会によって整理され、現在は大阪歴史博物館に寄託されている。

銭佐については、とくに熊本藩国産の明饗の流通について詳しく検討した。銭佐が熊本藩と関係を持つのは幕末になってからで、その中心は明饗の流通であった。その売買のあり方から熊本藩との関係を明らかにした。銭佐はもともと明饗の流通には関係していなかったと見られるが、商人金融の得意先として道修町の薬種中買と取引があり、その関係で明饗の流通に関与するようになったのではないかと推測される。銭佐と道修町の薬種商との関係は明治になってからも続いている。薬種商が決済に使用する小切手を振り出す3つの銀行のなかに逸身銀行が含まれている。

また、逸身喜一郎氏・吉田伸之氏とともに、家内の構造や家屋敷について検討した。家族や奉公人について個々人に即してその家内での役割を明らかにしていくとともに、銭佐の家屋敷所持状況を水帳絵図なども利用して検討した。

また、大阪商業大学商業史博物館（佐古文庫）には、幕末から明治初年の店の日記や藩債関係の史料などが残されている（もとは逸身家所蔵か）。このほか、逸身家と商売上あるいは縁戚としてつながりのあった、住友家、貝塚の広海家、大和下市の永田家、北河内の平池家、八尾の西岡家などにも古文書は残されているようであり、その一部については調査を開始した。これらを通して、銭佐の商人ネットワークがさらに解明されるであろう。

これらの検討により、銭佐のイエの全体構造が、個々人の固有名詞のレベルで明らかになるうしている。三井や鴻池などでの超本店では規模が大きくその全体を見渡すことは困難であるが、銭佐の場合はその全体を把握することが可能であるのだ。これは大坂の商家研究としては貴重な成果と言えるであろう。

その成果は、2014年11月～15年1月に開催予定の大阪歴史博物館特集展示「両替商 銭屋佐兵衛」において「展示叙述」としてまとめ公表する予定である。

新出安井家文書の調査・研究

数少ない17世紀の大坂の都市史に関する文書群の一つに安井家文書（大阪歴史博物館所蔵、大阪市指定文化財）がある。この文書群は南組惣年寄安井家に残された文書群である。これと伝来を同じくすると考えられる文書群の存在が2012年の初めに明らかとなった。これらの文書には、17世紀の道頓堀周辺の水帳など土地関係文書（絵図を含む）などが数多く含まれており、たいへん貴重な文書群である。

これらの分析を行って、17世紀の道頓堀の開発過程を土地所持のレベルから跡付けた。開発は順調に進んだのではなく、明屋敷となって代官支配の年貢地になった土地も少なくなかった。しかし1640年代から年貢地の再開発が始まり、1650年代には芝居小屋が軒を連ね、繁華街として発展していく基盤ができあがった。そして、その過程での開発者の安井九兵衛や平野次郎兵衛の特権形成や、彼らが道頓堀周辺地域でおこなった開発の過程も明らかにすることができた。

とくに、平野次郎兵衛が開発されたとされる新平野町(平野次郎兵衛町)では、17世紀終わりの段階で、町内の町屋敷を平野次郎兵衛と那波屋素順がほぼ半数ずつ、空間的に交互に所持している様子が明らかになった。平野家は、平野郷の有力者で南蛮貿易でも著名な末吉家の一族である。那波屋素順は、京都でも屈指の豪商で両替や大名貸を行っていた。この事実は、17世紀の都市開発にあたって、周辺地域を含めた豪商・有力者(のちに両替商・大名貸になるような)が関与しており、17世紀終わりの段階でもその影響力が維持されていることを示しており、都市開発と豪商の関係に関する新たな論点を提示していると言える。

このほか新出安井家文書は、これまで17世紀の大坂の「町」のイメージを代表させていた一つである菊屋町の「町」の展開についても再考を迫る内容を持っている。

千草屋(平瀬)宗十郎家の調査

千草屋(船場梶木町)は、幕末の大坂を代表する両替商である。明治期の当主露香は、当時大坂でも有数の文人としても知られ、大阪歴史博物館の展示でも取り上げられてきた。大阪歴史博物館で借用している経営史的、文化史的史料の整理を行い、約3,300点のリスト(目録)を作成した。経営関係史料は、銭屋佐兵衛家と比較できる経営帳簿(経営の総決算を一年ごとにまとめた帳簿)や手形、蔵屋敷関係の史料などが含まれている。作業はリストの作成までしかできなかったが、今後は経営関係文書を中心に分析を進めていきたい。また、文化史的な文書からも千草屋の交友関係などをさぐっていきたい。

「井上市兵衛日記」の調査

東北大学附属図書館(狩野文庫)所蔵「井上市兵衛日記」を調査(閲覧・写真撮影)した。井上市兵衛は、幕末の鴻池家の別家で船場の尼崎一丁目に店を構えていた大店である。明治になると西組大年寄をつとめ、その日記が翻刻もされている。当該の日記は、幕末期(1846~1862)のもので、銭佐の日記と違って店のものではなく、市兵衛本人の日記である。しかし、蔵屋敷への出入など公的な内容と私的な交流の両方が書き記されており、両替商当主の動向を知ることができる貴重な史料として今後分析を進めていきたい。

長田家文書の調査

国文学資料館所蔵の大川町の両替商加嶋屋(長田)作兵衛家の文書を調査した。加嶋屋作兵衛も大坂屈指の豪商・両替商である。長田家文書の量は膨大だが、とくに銭佐と比較できるように、家屋敷・掛屋敷関係、冠婚葬祭関係、出入関係、店制関係、熊本藩関係などの史料を中心に閲覧し、写真撮影を行った。今後、銭佐との比較史料として分析を進めたい。

その他

その他両替商をはじめ、大坂の商人関係の史料や図書(住友史料叢書など)を収集し、比較検討等の史料とした。

今後の展望

上述のように、銭佐関係と道頓堀関係を中心に分析を進めたため、その他については、史料の調査(整理)・収集だけであつたり、史料分析の途上で成果のまとまっていないものがある。今後は、これら本調査研究で得られた史料を基盤に、さらに分析を進めていきたい。

その際、銭佐で両替商のイエの構造と都市社会の関係構造が一定明らかとなったので、それを一つのモデルとして、他家(住友家、鴻池市兵衛家や長田作兵衛家など)との比較類型を進めていきたい。

また、銭佐関連史料をさらに探訪して、銭佐のネットワークと社会的関係構造の解明をさらに立体的に深めていきたい。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計6件)

八木滋、熊本藩国産明礬と銭佐、逸身喜一郎・吉田伸之編『両替商 銭屋佐兵衛』、東京大学出版会、査読無、2014年10月刊行予定

八木滋、今後の近世大坂研究の課題を考える、塚田孝・佐賀朝・八木滋編『近世身分社会の比較史』、清文堂出版、査読無、2014、423 - 434

八木滋、一七世紀大坂道頓堀の開発と芝居地、塚田孝・佐賀朝・八木滋編『近世身分社会の比較史』、清文堂出版、査読無、2014、137 - 164

八木滋、近世前期道頓堀の開発過程 新出文書の検討から、大阪歴史博物館研究紀要、大阪歴史博物館、査読有、12、2014、(1) (25)

八木滋、近世大坂の合薬屋に関する新史料、大阪歴史博物館研究紀要、大阪歴史博物館、査読有、11、2013、(89) (103)

YAGI, Shigeru (八木滋)、The people connected with vegetable markets、City, Culture and Society、ELSEVIER、査読有、3-1、2012、21 27

〔学会発表〕(計3件)

八木滋、17世紀大坂の都市開発、釜山大学
校韓民族文化研究所・大阪市立大学都市文
化研究センター第4回共同学術会議、2014年
2月7日、大韓民国・釜山大学校

八木滋、近世大坂の青物流通と市場社会、
イエール大学東アジア研究委員会主催特別
シンポジウム「City and Region in Japanese
History」、2012年3月27日、米国・イエ
ール大学

八木滋、青物市に関わる人びと、上海大学
文学院・大阪市立大学文学研究科共催国際シ
ンポジウム「東アジアにおける都市社会史へ
の視点 上海と大阪を中心に」、2012年3月
1日、中国・上海大学

〔図書〕(計1件)

塚田孝・佐賀朝・八木滋編『近世身分社会の
比較史』、清文堂出版、2014、434

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

取得状況(計0件)

〔その他〕

ホームページ等：無

6. 研究組織

(1) 研究代表者

八木 滋(YAGI, Shigeru)

公益財団法人大阪市博物館協会・大阪歴史
博物館・学芸員

研究者番号：70311446